

研究機関名：下関市立市民病院

研究課題名：

高齢心不全患者におけるエネルギー摂取量と生命予後との関連性に対する身体機能、入院関連嚥下機能低下（Hospital-Associated Dysphagia）の影響

研究期間：2026 年 4 月 1 日～2026 年 9 月 13 日

対象材料：

- ☐ 病理材料（対象臓器名： ）
☐ 生検材料（対象臓器名： ）
☐ 血液材料
☐ 遊離細胞
☒ その他（ 診療録 ）

上記材料の採取期間：2023年3月～2025年4月

意義：心不全患者において、入院中のエネルギー摂取量の低下は生命予後不良と関連する独立した因子であることが報告されている（Katano ら、2021）。そのため、運動療法の効果を最大限に発揮するためには、適切な栄養管理および栄養指導が重要であると考えられている。一方、代表的な身体機能評価指標である Short Physical Performance Battery（SPPB）も生命予後と関連する独立した因子であり（Chiarantini ら、2010）心臓リハビリテーションにおける重要なアウトカムとして位置づけられている。さらに、我々は心不全患者において入院関連嚥下機能障害（Hospital-Associated Dysphagia）が生命予後の独立した因子であることを報告した。したがって、嚥下機能も心臓リハビリテーションにおける重要な治療ターゲットになりうると考えられる。エネルギー摂取量は身体機能や嚥下機能と密接に関連することが想定されるが、エネルギー摂取量の低下と生命予後との関連に対して、身体機能および Hospital-Associated Dysphagia がどのように影響しているかは明らかになっていない。これらの影響を明らかにすることは、心不全患者に対する心臓リハビリテーションの介入戦略を構築する上で有用な知見となる可能性がある。

目的：心不全患者におけるエネルギー摂取量低下と生命予後との関連に対する身体機能および Hospital-Associated Dysphagia の影響を明らかにすることを目的とした。

方法：当院の患者データベースおよび電子カルテより後方視的に通常診療の範囲内で得られる患者基本情報や医学的情報、治療経過、リハビリテーション経過、退院時の身体機能評価、退院時の内服薬、予後イベントの有無（全死因死亡）等を診療録より収集する。

個人情報の取り扱い：患者様の個人情報は、個人を特定できる情報とは切り離した上で使用する。また、研究成果を理学療法関連学会で発表するが、患者様個人を特定できる個人情報は含まない。

問い合わせ・苦情等の窓口：

$$\overline{750-8520}$$

山口県下関市向洋町一丁目13番1号

下関市立市民病院 リハビリテーション部 月城 一志

TEL 083-231-4111 FAX 083-224-3838